

第三者評価結果シート・コピー（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

福祉サービス評価センターさが

②評価調査者研修修了番号

S15069
S24267

③施設名等

名称：	佐賀清光園
施設長氏名：	西村明純
定員：	45名
所在地(都道府県)：	佐賀県
所在地(市町村以下)：	佐賀市呉服元町5番18号称念寺内
T E L：	0952-23-3295
U R L：	

【施設の概要】

開設年月日	1901/9/15 (財団法人 佐賀孤児院 の名称で発足)
経営法人・設置主体 (法人名等)：	社会福祉法人 佐賀清光園
職員数 常勤職員：	21名
職員数 非常勤職員：	5名
専門職員の名称 (ア)	書記
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称 (イ)	家庭支援専門相談員
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称 (ウ)	個別対応職員
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称 (エ)	心理療法担当職員
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称 (オ)	里親支援専門相談員
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称 (カ)	栄養士
上記専門職員の人数：	1名
施設設備の概要 (ア) 居室数：	17室
施設設備の概要 (イ) 設備等：	ショートステイ室・生活訓練室
施設設備の概要 (ウ)：	地域交流スペース・医務室兼心理療法室
施設設備の概要 (エ)：	

④理念・基本方針

<p>創建当時の仏教精神を忘れることなく、子どもが安心して生活できる環境の下で、児童憲章・児童福祉法等に示される基本的人権を尊重し、心身ともに健全に発達し「明るく・正しく・仲良く」生活できる人間になるように養育することに努める。</p>
--

⑤施設の特徴的な取組

<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝夕に施設に隣接する本堂にておつとめを行い報恩の心を育む。 ・毎食前に食前の言葉を述べ食物に対する感謝の心を育む。 ・種々の仏教行事を通して、明るく・正しく・仲良い生活をおくるよう指導する。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間 (ア) 契約日 (開始日)	2016/10/11
評価実施期間 (イ) 評価結果確定日	2017/2/20
受審回数	1回
前回の受審時期	平成25年度

⑦総評

◇特に評価の高い点
 ○ 子どもの基本的な人権を尊重した養育・支援の理念方針を明確にし、職員会議の開催や各種研修会等を通じて認識を深め、情報を共有化する取り組みが展開されている。
 ○ 日常の様々な場面で職員が積極的に子どもに関わり、養育・支援に努められている。子どもたちが、他者とのふれあい・関わりの中で、他者を思いやり、尊重する心を育むよう取り組まれ、また、体罰をはじめ虐待防止についても、関係機関と連携を密にし、積極的に取り組まれている。
 ○ 子どもの発達段階に応じた食事、アレルギーや病気等の健康状態に応じた食事作り、子どもの生活実態に即した食事の提供など食生活習慣の確立、あるいは、子どもの発達段階に応じた衣類の整理、季節ごとの衣類の着用、子ども自身の嗜好にも配慮した衣習慣確立への配慮がなされている。
 ○ 子どもたちの健康を保持し、心身の健やかな成長を促すため、嘱託医、医療機関、関係機関等と連携し、日々の健康状態・心身の状態の把握に努めるとともに、発達段階に応じた生活習慣の確立、健康教育など子どもたちの安全・安心を図る取り組みが行われている。
 ◇改善を求められる点
 ○ 毎年度の事業計画は、保護者や子ども、関係機関に広く周知し、理解を求める取り組みが必ずしも十分とは言えず、中・長期計画等とともに情報公開を進める今後の積極的な取り組みが望まれる。
 ○ 養育・支援の質の向上に向けて、自立支援計画の作成から実施・見直しに至る日々の取り組み状況については、職員会議等での論議や職員間の情報の共有化等が図られているが、評価結果の整理・記録等が十分でなく、質の向上・改善に向けた取り組みへどのように反映されたのか把握しづらい状況が見られる。PDCAサイクルに基づく組織的な取り組みの強化が望まれる。
 ○ 施設長以下職員は、法人の理念を理解し、児童に寄り添う職員像を目標にし、職務に精励されているが、職員の具体的な人事基準が必ずしも明確化されておらず、また、人事考課等は実施されていない。人事基準の明確化に努め、自己評価等も含めた組織的な人事考課制度の導入など職員のスキルアップ、意欲向上に向けた取り組みを期待したい。
 ○ 地域福祉の向上に貢献し支援するため、地域交流室を設け地域の方々利用に供するとともに施設内外の各種行事への相互参加協力等に努め、また、関係機関・団体、民生児童委員協議会等との連携を図られている。しかし、具体的な地域ニーズの把握やそれに基づく公益的な事業展開はあまりなされておらず、施設が有する機能や人材を活用した地域の子育て支援の取り組みの充実を期待したい。
 ○ 養育・支援の実施に当たっては、子どもからの相談・個別面談に随時応じるとともに、月例の子ども会での意見聴取、年1回以上の個別聞き取り、園内の「お願いボックス」への投書等、子どもたちが自由に意見・要望を述べるができるようにされている。これらの意見・要望については、職員会議等で検討・対処されているが、必要に応じて子どもたちも参画しての検討の場は設置されていない。公表しても支障のない意見・要望等については、個人情報保護等に十分配慮しながら、検討結果と併せて公表する方法等の検討が望まれる。
 ○ 子どもたちの職場実習等の社会体験機会の拡大については、学校でのインターンシップの機会を活用され、また、定時制・通信制高校等通学の子どもについては、学校や雇用主との情報交換等の連携協力体制の確保が図られている。今後も、これらの支援体制を保持されるとともに、子どもたちの理解を深めるための一層の取り組みを望みたい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

様々な評価を頂きありがとうございます。施設として、まず地域福祉のニーズを把握し子育て支援に貢献するよう取り組み、自立支援計画の評価の整理記録の充実、個人情報保護に配慮した情報公開、人事考課の導入の体制づくりなど改善が求められている点への取り組みを行っていきます。

⑥第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○

【コメント】

理念・基本方針が明確にされ、施設内の文書やパンフレットで公表・周知が図られるとともに職員会議や職員研修等で周知に努められている。また、子ども会議や行事の際に子どもたちに説明がなされている。しかしながら、必ずしもその周知・理解が図られているとは言い難い面も見られ、その周知・理解促進を更に図ることが望まれる。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果	
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b	2
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○	
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。		
【コメント】 施設長は、全国組織や地方自治体の審議会等の委員も努められ情報収集とともに経営環境の動向把握に努められているが、施設が立地する地域の動向や潜在的ニーズ、課題の把握になお一層取り組まれ、地域の期待に応えられるよう望みたい。			
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b	3
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。		
【コメント】 経営環境や今後取り組むべき課題等については、ある程度明確化されているが、その解決・改善のための具体的な取り組みまでには至っておらず、役職員一体となった組織的・具体的な取り組みが望まれる。			

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	4
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。		
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○	
【コメント】 家庭的養護計画として小規模グループケア等の小規模化の方向を目指すとされているが、具体的な中・長期計画とは言い難く、これら計画の具体化に向けた組織的な論議・検討が望まれる。			
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c	5
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。		

<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	
<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

年度計画を作成し、実行されているが、行事計画的なものとなっており、具体的な中・長期計画の作成を踏まえ、その実現に向けた各年度計画の作成、実施が望まれる。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	6
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○	
<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○	
<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。		
<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。		
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。		

【コメント】

事業計画は職員の意見も反映して策定されているが、その評価・分析が十分なされておらず、計画見直しに反映されていない。今後は、実施実績の把握・評価・分析を行い、計画策定に活かされるよう期待したい。

② 7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c	7
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。		
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。		
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。		
<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。		

【コメント】

事業計画を保護者や子どもに周知し、理解を求める取り組みは特になされておらず、今後の積極的な取り組みが望まれる。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	8
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。		
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○	
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○	
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。		

【コメント】

第三者評価や自己評価の定期的な実施、職員会議等での論議等、養育・支援の質の向上のための取り組みが展開されているが、PDCAサイクルに基づく組織的な取り組みの強化が望まれる。

②	9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	c	9
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。		
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○	
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。		
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○	

【コメント】

職員会議等での論議や職員間の情報の共有化等が図られているが、評価結果の整理・記録等が十分ではない。改善に向けた取り組みへ、どのように反映されたのか把握しにくい状況が見られる。PDCAサイクルに基づく組織的な取り組みの強化が望まれる。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果	10
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○	

【コメント】

施設長は、自らの役割と責任を認識して施設の経営管理に臨まれ、職員に対する経営方針等の周知・理解に努められているが、その職務分掌等が文書等で明確化されていない。文書等でこれを明確にし、施設長以下職員の責任と役割分担を明確化することが望まれる。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b	11
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○	

【コメント】

施設長は、運営責任者として会議・研修会等に参加し、遵守すべき法令の把握、理解に取り組まれ、職員への周知・理解に努められている。福祉事業に直接関わる関係法令はもとより、危機管理、安全衛生、雇用管理など施設運営に関係する法令は広範囲にわたることから関係法令のリスト化等が望まれる。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。			12
①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○	

<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

常にケアの質の向上を目指し、職員の教育、研修に努められている。今後も、職員の意見等も反映して職員の教育・研修の充実が図られることを期待したい。

②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b	13
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○	
<input type="checkbox"/>	施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○	
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。		
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。		

【コメント】

経営改善や勤務体制改善について幹部職員と協議しながら取り組まれている。今後の施設の在り方、経営改善や業務の実効性の更なる向上に向けて、幅広く職員の意見を聞き論議する場を設ける等積極的な取り組みの展開が望まれる。

2 福祉人材の確保・育成

(1)	福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b	14
<input type="checkbox"/>	必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○	
<input type="checkbox"/>	養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○	
<input type="checkbox"/>	計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○	
<input type="checkbox"/>	法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。		
<input type="checkbox"/>	各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○	

【コメント】

必要な福祉人材や職員の確保・育成に努められ、一定の成果も見られている。今後の事業展開、職員の人材確保と定着、資質向上に向け、引き続き積極的に取り組まれない。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	c	15
<input type="checkbox"/>	法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	○	
<input type="checkbox"/>	人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。		
<input type="checkbox"/>	一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。		
<input type="checkbox"/>	職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。		
<input type="checkbox"/>	把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。		
<input type="checkbox"/>	職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができて		

【コメント】

法人の理念を理解し、児童に寄り添う職員像を目標にし、周知に努められているが、具体的な人事基準が必ずしも明確化されておらず、また、幹部職員による職員の意向聞き取りは実施されているが人事考課等は実施されていない。人事基準の明確化に努め、自己評価等も含めた組織的な人事考課制度の導入などの取り組みを期待したい。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b	16
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。		
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。		

【コメント】

職員の就業状況の把握、健康診断等健康管理に努め、職員との個別面談の実施等に取り組まれている。今後は、外部の専門職等も活用した相談窓口の設置やメンタルヘルスの取り組みなど、より働きやすい職場づくりに期待したい。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b	17
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○	

【コメント】

職員との個別面談の実施、各職員自身による「振り返りノート」の作成がなされているが、職員一人ひとりの目標等が必ずしも明確化されているとは言い難く、また、このノートの活用方法も工夫する必要があると認識されている。職員の意欲向上とスキルアップを支援する取り組みの強化について、職員の意見等も聞きながら検討されることを望みたい。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	18
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。		

【コメント】

施設が職員に必要とされる専門知識や専門資格を踏まえて研修に関する方針や計画が定められ、それに基づき職員の意見も聞きながら実施されているが、実施結果・成果の評価が十分ではないと認識されている。計画的・体系的な教育・研修制度の確立に向け、教育・研修の実施・評価・見直しについて検討されることを望みたい。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b	19
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○	
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○	

【コメント】

新任職員、中堅職員あるいは各専門職それぞれに施設内外の研修の機会確保に努められている。今後も、引き続き積極的に取り組まれることを望みたい。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	20
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。		
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○	

【コメント】

実習生受け入れに当たっては学校との連携を密にされ、実習プログラムに基づき実施されているが、実習生受け入れに関する基本姿勢が明文化されていないので、その明文化を求めたい。また、実習指導者に対する研修が実施されていないのでその受講も求めたい。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b	21
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	○	
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。		
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○	

【コメント】

施設のパフレットや園だよりにより活動報告がなされるほか、全社協のホームページを利用して公表されている。今後とも、第三者評価等の実施取り組み状況等も含め、運営の透明性の確保に努められたい。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	22
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。		
【コメント】			
施設における内部監査はもとより、外部の有識者からのアドバイスを求める等の取り組みがなされている。小規模グループホーム化等の中・長期計画策定の論議が求められる時でもあり、随時、外部の専門家の活用についても検討されたい。			

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果	23
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○	
	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○	
【コメント】			
お楽しみ会等の地域の子ども達も参加した行事開催、地域行事への積極的な参加、施設外の地域清掃を初めとする地域活動に積極的に取り組まれており、また、各種団体の主催行事への参加や、イベントの受け入れもされている。しかし、これら地域交流に係る基本的な考え方が明文化されていないので、事故防止等の安全対策、リスク管理などにも配慮した基本方針の明確化が求められる。			
(2) 関係機関との連携が確保されている。			24
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。		
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。		
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	○	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。	○	
【コメント】			
ボランティア登録や関係学校との連携を密にし、地域ボランティアや高校生徒のボランティアの受け入れがなされている。しかし、受け入れに際しての基本方針が明文化されておらず、ボランティアに対する研修等が未実施である。ボランティアの受け入れについての基本方針を明確化するとともに、ボランティア活動に際し配慮すべき事項等について、必要な研修・支援についての体制整備が望まれる。			
(2) 関係機関との連携が確保されている。			25
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b	
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。		

<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

各関係機関・団体、地域団体等との連携が図られ、随時協議の機会も設けられており、職員間の情報の共有化も図られている。個々の子どもの状況に迅速に対応できるよう関係機関・団体等とのネットワークの更なる強化等に努められたい。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

① 26 施設が有する機能を地域に還元している。	b	26
<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。		
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。		
<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。		
<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	○	

【コメント】

地域交流室を設け地域の方々の利用に供するとともに施設内外の各種行事への相互参加協力等に努められているが、施設が有する機能や人材を活用した地域の子育て支援の取り組み充実を期待したい。

② 27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	c	27
<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。		
<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。		
<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。		
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。		
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。		

【コメント】

関係機関・団体、民生児童委員協議会等との連携は図られているが、具体的な地域ニーズの把握やそれに基づく公益的な事業展開はあまりなされておらず、施設の有する機能・人材を活かした取り組みが望まれる。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

① 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	28
---	---	----

第三者
評価結果

<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

子どもの基本的人権を尊重した養育・支援の理念方針を明確にし、職員会議の開催や各種研修会等を通じて認識を深め、情報を共有化する取り組みが展開されている。今後とも、職員の共通認識・情報共有化等に差異が生じないように更なる取り組みの充実に期待したい。

② 29 子どもプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	b	29
<input type="checkbox"/> 子どもプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どもプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○	
<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	○	

【コメント】

子どもの権利擁護については、規程等も整備され、職員に対しても研修・教育を通じて周知・理解が図られており、具体的な取り組みもなされている。今後は、保護者等に対する取り組みの強化について期待したい。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

① 30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b	30
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特徴等を紹介した資料を準備している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○	

【コメント】

養育・支援サービスの開始に際しては、子どもや保護者に対しパンフレットや園のしおり等の配布・説明がなされており、個人情報保護等の必要な同意書の取り交わしもなされている。また、施設見学等にも随時対応されている。なお、保護者に対する情報提供に関しては、施設サイドで判断せざるを得ない場合もあることから事例毎に検討のうえ実施されている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b	31
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	○	
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。		
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○	

【コメント】

養育・支援サービスの実施に当たっては、子どもや保護者に対し、その理解力、入所に至った経緯等に配慮しながら、園のしおりや権利ノート等により説明がなされ必要な同意書の取り交わしに努められている。このため、全てのことについて保護者等の同意等が取り交わせない事例もあることから、そのような事例については、その実施状況や施設側の判断理由等を明確化しておくことが望まれる。

③	32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b	32
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。		
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。		

【コメント】

措置変更や退所時には、支援の継続性に配慮した記録の引継ぎや文書の交付、説明等がなされているが、その手順や必要な文書や内容等については必ずしも明確化しているとは言い難い。支援の継続性に配慮した記録の引継ぎや文書の交付、説明等に関する取扱要領等を定め、明確にされることが望まれる。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b	33
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 子どものへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。		

【コメント】

子どもからの相談、個別面談に随時応じるとともに、年1回以上の個別聞き取りの機会を設け、また、「お願いボックス」を園内に設け、子どもたちが自由に意見・要望を述べるようにしている。これらの意見・要望については、子どもたちも参画しての検討の場は設けられていないが、職員会議等で検討され、できるものについては対処されている。今後は、公表しても支障のない意見・要望等については、個人情報保護等に十分配慮しながら、検討結果と併せて公表する方法等の検討が望まれる。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b	34
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○	
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。		

<input type="checkbox"/>	苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	○
<input type="checkbox"/>	苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	○
<input type="checkbox"/>	苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。	
<input type="checkbox"/>	苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

苦情解決の体制については、苦情解決実施規程が整備され、施設内の苦情解決ルートと、県（こども家庭課）へ直接相談・申し出るルートの二つが確立しており、適切に対処されている。今後も、苦情解決体制の周知や苦情相談内容や対処結果等についての適切な公表に引き続き努められるよう望みたい。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	c	35
<input type="checkbox"/>	子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。		
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。		
<input type="checkbox"/>	相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○	

【コメント】

月例の子ども会で意見を聞くとともに、子どもたちには、担当職員に限らず園長以下いずれの職員にも相談できること、園内の「お願いボックス」に投書する方法、通学している学校の先生に相談する方法、児童相談所に直接相談する方法もあることを周知している。また、個別に話をする場合は、個室を使用することとされている。今後は、このような取り組みをしていることを園内に掲示したり保護者等に説明・配布する文書の作成を望みたい。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b	36
<input type="checkbox"/>	相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。		
<input type="checkbox"/>	対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。		
<input type="checkbox"/>	職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○	
<input type="checkbox"/>	意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/>	職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。		
<input type="checkbox"/>	意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○	

【コメント】

子どもからの相談等に対する取り組みは適切に対応されているが、手順を定めたマニュアルは作成されていないので、これを作成し、組織としての取り組み体制・方法・手順等を明確にすることが望まれる。

(5)	安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。	第三者 評価結果	37
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	
<input type="checkbox"/>	リスクマネジメントに関する責任者の明確化（リスクマネジャーの選任・配置）、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。		
<input type="checkbox"/>	事故発生時の対応と安全確保について責任、手順（マニュアル）等を明確にし、職員に周知している。	○	
<input type="checkbox"/>	子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○	
<input type="checkbox"/>	収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○	
<input type="checkbox"/>	職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○	

	○
--	---

【コメント】

緊急時の対応マニュアルが作成され、職員や子どもたちにも周知が図られるとともに、定期的に避難訓練や防災訓練も実施されている。ヒヤリハット事例への対応も職員会議等でなされている。しかし、組織全体を通じた体系的な取り組み体制を明記した書類が明確ではないので、マニュアルの見直し等を行い、責任者の役割や体制を明確にされることが望まれる。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b	38
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	○	
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○	
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。		

【コメント】

感染症の予防については対応マニュアルを整備するとともに、衛生担当職員を定め、職員への周知、研修・教育も行われている。今後とも、なお一層の取り組みの徹底のため、対応マニュアルの点検・見直し等について配慮されたい。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b	39
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○	
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。		
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○	
	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	○	

【コメント】

消防や警察との連携した定期的な訓練はもとより、自衛消防隊を組織し、毎月の各種災害訓練の実施、小学校低学年児童の登校時の職員同行や集団登下校に取り組まれている。今後は、職員等に対し、これらの取り組みの必要性や具体的な実施方法等について一層の周知・徹底を図られるよう望みたい。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	40	
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。		b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。		○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。		○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。		○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。		

【コメント】

援助指針に沿った標準的な実施方法が定められ、施設の基本方針等とともに冊子として職員に配布され、職員会議等で周知されている。養育・支援の実施状況は、電磁記録による日誌やケース記録により関係職員は随時に把握確認できるが、園長等の責任者の把握確認の状況が明確になるようその手順・方法を明確にしておくことが望まれる。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	41
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○	

【コメント】

標準的な実施方法について、定期的に、また、必要に応じて随時見直しがなされており、見直しに際しては職員や子どもの考えや心身の状況を踏まえて行われているが、その具体的な方法や手順を明確にしておくことが望まれる。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b	42
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○	
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○	
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○	

【コメント】

主任指導員が責任者となり、各担当指導員とともに、自立支援計画書が作成されており、見直しに際しては実績評価もなされているが、その具体的な方法や手順を明確にしておくことが望まれる。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b	43
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○	

<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。		
<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○	

【コメント】

主任指導員が責任者となり、各担当指導員とともに、年2回の定期・その他必要時に自立支援計画書が作成されており、見直しに際しては実績評価もなされているが、その具体的な方法や手順を明確にしておくことが望まれる。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	b	
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○	44
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○	
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○	

【コメント】

養育・支援の実施状況は、パソコンを利用して記録・整理され、指導員は随時に関覧・確認・記録ができ、情報の共有化が図られている。しかし、パソコン導入から日が浅く経験が短いため、生活・学習・身体等の各種情報の記録の整理の仕方、情報処理の方法の改善等が課題であると認識されており、改善に向けた取り組みの進展に期待したい。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b	
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○	45
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○	

【コメント】

個人情報保護規程が定められ、また、業務別に各パソコン端末の分離、ネットワーク化がなされる等、ケース記録等の個人情報保護は適切になされている。しかし、個人番号制度が導入されたこともあり、保護規程の規定の内容、子どもや保護者等への説明や同意書の内容等についてのチェックが望まれる。

内容評価基準 (41項目) A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者 評価結果	
①	A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b	A1
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。	○	

<input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。	○
<input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。	○

【コメント】

子どもの権利擁護を基本方針に定め、それに従い、子どもの最善の利益を目指して職員会議等で論議し、情報共有を図り、一貫性のある養育実践に努められている。定期及び随時の自立支援計画書の見直しもアセス結果を踏まえてなされているが、これら振り返り検証の際の具体的な方法や手順を明確にしておくことが望まれる。

②	A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	b	A2
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○	
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。		

【コメント】

子どもの生い立ち等については、子どもの心身の発達状況等を考慮し、慎重に対処されており、中学生頃の家族の状況について理解ができる時期を目途になされている。また、事後フォローにもしっかりと配慮されているが、フォローのあり方について、園長以下各職員はもとより、学校をはじめ関係機関の組織的・一体的な取り組みについての配慮が望まれる。

(2) 権利についての説明

①	A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b	A3
	<input type="checkbox"/> 定期的に全体の中で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。	○	
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○	
	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。		
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○	

【コメント】

毎年度、権利ノートを活用して子どもたちに説明し、職員会議等でも随時に議題として職員の認識を深めるようにされている。職員・子どもともに、自他の権利擁護に関する一層の周知理解を図るため、定期的な研修・教育の機会の充実が図られることを期待したい。

(3) 他者の尊重

①	A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a	A4
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別にふれあう時間を確保している。	○	
	<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。	○	

【コメント】

日常の様々な場面で職員が積極的に子どもに関わる取り組み姿勢がうかがえる。子ども間の喧嘩等も子ども同士で解決できるよう支援されている。また、園の設立理念でもある仏教行事等を通じて思いやりの心を育むようにされている。

(4) 被措置児童等虐待対応

①	A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a	A5
	□「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。	○	
	□被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。	○	
	□被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。	○	

【コメント】

体罰をはじめ虐待防止について就業規則等で明確にし、機会あるごとに職員会議等で防止策とともに論議し、また、職員の研修・教育の場への参加を積極的に行い、関係機関との協力・連携にも配慮されている。

②	A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b	A6
	□不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがとられている。	○	
	□不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	○	
	□暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。	○	
	□不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	○	
	□不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	○	
	□子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。	○	

【コメント】

子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見について、就業規則や具体的な養育場面における対応マニュアルが整備され、職員への周知徹底も、職員会議等機会あるごとになされている。今後とも、子どもたちに対する学習機会の確保・充実に向けた取り組みを期待したい。

③	A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b	A7
	□被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。	○	
	□被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○	
	□被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	○	
	□被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○	

【コメント】

子どもの権利ノートを活用し、また、対応マニュアルにより迅速な対応・通告等がなされる体制が確保されている。今後、更に、届出者等が不利益を受けることが無い仕組みが徹底されていることを子どもたちに周知する取り組みの実施を期待したい。

(5) 思想や信教の自由の保障

①	A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	b	A8
	□子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。	○	

<input type="checkbox"/> 施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。	○
<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	

【コメント】

子どもや保護者に対し、施設の創建が仏教理念よりなされていることを入所前から説明するとともに、思想や信教の自由は保障されている旨説明し、配慮している。しかし、仏教行事が多く、偏りがあると捉えられているとの声の一部には聞かれるとの課題認識もされており、引き続き、更なる周知・理解促進のための取り組みの継続に配慮されたい。

(6) こどもの意向や主体性への配慮

①	A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	b	A9
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。		

【コメント】

入所前の施設見学や相談・説明に積極的に対応するとともに、関係機関からの子どもや保護者等の情報の入手、職員間での論議を踏まえた支援計画の作成・入所準備等子どもが受け入れやすいような環境づくりがなされている。しかし、これらの入所手順が必ずしも明確化されているとは言い難い面もあるので、明確化されることが望まれる。

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	b	A10
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○	

【コメント】

基本の日課を踏まえ、生活改善に向けた支援・取り組みがなされている。子どもたちの意見や要望聞き取りもしながら取り組まれているが、子ども会の活用等組織的な検討のあり方について検討されることを望みたい。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	b	A11
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。	○	
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	○	

【コメント】

校区の公民館活動や地域行事・イベントへの参加を初め、子どもの自主的な意見や取り組みをできるだけ尊重した園内外での活動ができるよう支援されている。また、ゲーム機器やスマホ等については、子どもの発達段階や学校でのクラブ活動の事情等を考慮した取り扱いのルールを定めて対処されているが、これらの取り扱いの方法や必要性・理由について子どもたちに説明・理解を促す継続的な一層の取り組みに配慮されよう期待したい。

②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b	A12
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。		
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。	○	

【コメント】

子どもの発達段階に応じて、こづかい帳（金銭出納帳）の記帳とともに子ども単独での買い物行動など金銭管理、経済観念の醸成に向けた支援がされている。また、将来の自立のための貯蓄も行われている。自立しての生活を控えた子どもに対する教育や支援、雇用主等を含めた関係者の相互協力・支援体制作りにも配慮されているが、この取り組み体制が更にしっかりとしたものとなるよう自立支援プログラムの確立に期待したい。

(8) 継続性とアフターケア

①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b	A13
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。		

【コメント】

家庭復帰に際しては、関係機関との情報交換・連携はもとより、保護者への説明とともに、復帰後も随時相談に応じることも説明されている。復帰後の保護者との連携の確保に苦慮されているが、保護者への働きかけ等継続していけるよう望みたい。

②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b	A14
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。		

【コメント】

できるだけ高等学校教育を修了させることを基本とし、子どもや保護者、児童相談所と協議し、対処されている。定時制高校や通信制高校への進学についても、通学支援とともに就労に結びつける支援もなされている。高校卒業後の進学や就職時の本人等からの相談や雇用主との連携についても同様に支援取り組みがなされている。高校卒業後の措置延長の事例は無く、施設設備面での制約もあることから長期的な検討課題であると認識されており、今後の論議の進展に期待したい。

③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b	A15
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○	

<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	

【コメント】

退所後も随時相談できることを子どもたちに周知するとともに他の支援・相談に関わる関係機関との連携にも配慮されている。施設面の制約等から退園を控えての実際的なリービングケア全体の訓練は実施困難だが、食生活指導を初め、生活全般に亘る教育・指導とともに雇用主等との連携にも配慮されている。退所者の来訪も随時あつて、退所者と職員・子どもたちとの交流の場・機会の確保に一層努められるよう望みたい。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果	
①	A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b	A16
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。		
【コメント】			
職員は、常に子ども達に寄り添い、受入れ、子どもとともに歩む取り組みの実践に努められている。特に、保護者との関わりに不安な子には、注意を払い支援に努められている。子どもからの聞き取り調査を毎年行い、子ども達をより一層深く理解しようと努められており、今後とも、これらの取り組みの充実を期待したい。			
②	A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b	A17
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。	○	
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○	
	<input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。		
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○	
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めるとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○	
【コメント】			
子どもからの聞き取り調査の実施を初め、日々の取り組みの中で子どもたちの基本的要求の把握・充足に努め、日常生活の中で柔軟に対応されている。幼児の見守り保育や添い寝、中高生等のクラブ活動や学習塾通塾、アルバイトや就労への支援・対応等柔軟に取り組まれている。これらの養育支援の充実に向けて、引き続き取り組まれるよう期待したい。			
③	A18 子どもを力を見て見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b	A18
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○	

<input type="checkbox"/>	職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○
<input type="checkbox"/>	子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
<input type="checkbox"/>	つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
<input type="checkbox"/>	朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	

【コメント】

子どもの自主性を尊重し、見守る姿勢が採られている。幼児から中高生まで幅広い年齢層に亘り、日々の生活パターンも多様ななかで、また、職員の配置体制にも限りがあるなかで、子どもの自主性を尊重し、見守る姿勢が採られている。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b	A19
<input type="checkbox"/>	施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。	○	
<input type="checkbox"/>	日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要があれば可能な限りニーズに応えている。		
<input type="checkbox"/>	幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○	
<input type="checkbox"/>	学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができている。		
<input type="checkbox"/>	子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。		
<input type="checkbox"/>	幼稚園に就園させている。	○	
<input type="checkbox"/>	子どもの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。	○	

【コメント】

子ども達の発達段階に応じて玩具や遊具、図書類などの整備がなされ活用されている。また、学習ボランティアを積極的に受け入れ、学習や遊びなど子ども達との触れ合い・支援に努めるとともに、子ども単独でのお出かけや園外活動への参加も支援されている。学校や地域自治会等関係団体との連携の下、子どもたちの活動の場の確保・充実が一層図られるよう期待したい。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b	A20
<input type="checkbox"/>	職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。	○	
<input type="checkbox"/>	普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。		
<input type="checkbox"/>	施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	○	
<input type="checkbox"/>	見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。		
<input type="checkbox"/>	地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	○	

【コメント】

「明るく正しく仲良く」との施設の理念の下、落ち着いた雰囲気・環境の中で、基本的な生活習慣が確立し、子どもたちが生活していることがうかがえる。今後とも、特に職員には、子どもたちの模範となるような姿勢を示し続けていくことが期待される。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	b	A21
---	---	---	-----

<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	○
<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	
<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。	○
<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	
<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	○
<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	○

【コメント】

「静かに・遊ばずに・しっかり噛んで」を基本に、食生活習慣の形成・食事の場所の環境整備が図られ、適時・適温の食事提供、クラブ活動等子どもの事情に配慮した食事時間や弁当準備等の配慮がされている。また、誕生会や行事等の食事、外部の方々と交えての食事会など、食事を楽しむ機会の確保に努められている。朝・夕は、職員・子ども共に最も慌ただしい時間帯であり、また、職員体制の制約もある中ではあるが、交流・ふれあいの貴重な時間帯であり、引き続きの取り組み努力に期待したい。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a	A22
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	○	

【コメント】

年2回の嗜好調査・毎月の献立打合せを行い、子どもの心身の状況に応じた食事の提供に努められている。また、アレルギーや病気等の健康状態に応じた食事づくりがなされている。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b	A23
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	○	
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつの摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。		
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	○	
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	○	

【コメント】

食事献立表掲示、各種行事食や旬の食材を用いた料理、おやつ作りや調理の手伝いを含めた食事作り・食習慣の習得への取り組みがなされている。また、偏食改善に向けた取り組みもなされている。卒園を控えた子供には、献立表、必要な食材や調理レシピの配布、調理の手伝い等による実習指導がなされている。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a	A24
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○	
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体にあつたものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○	
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○	

【コメント】

子どもの発達段階に応じた衣類の整理、季節ごとの衣類の着用、中高生については一定額内での買い物など子ども自身の嗜好にも配慮した習慣確立への配慮がなされている。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b	A25
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	○	
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。		
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。		
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	○	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○	

【コメント】

施設設備面での制約がある中で、整理整頓、清掃に意を用い、暖かい住環境作りに配慮されている。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b	A26
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。		
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。		
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。	○	

【コメント】

施設設備面の制約もあり、子どもの居室は個室の整備が十分にできていないが、リビングや静養などのスペース確保に配慮されている。また、各居室は、子どもの発達段階に応じ、自立した生活環境作りを促すよう取り組まれている。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b	A27
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。	○	
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。	○	

【コメント】

毎日の体温測定を初め、子どもたちの清潔保持、整容に日々配慮されていることが十分うかがえる。また、衣類や寝具の清潔保持・管理にも適切に配慮されている。施設が中心市街地に立地していることから、施設内外でのリスク防止に特に配慮が必要と認識されており、今後とも、学校を初め、関係機関、地域団体等との連携協力体制を密に図られるよう望みたい。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a	A28
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○	

【コメント】

年2回の定期健診、年1回の歯科検診はもとより、毎日の体温測定など子どもの健康状態、心身の状態の把握に努め、嘱託医及び関係医療機関と連携して適切に対処されている。

(6) 性に関する教育

①	A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a	A29
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。	○	

	○
--	---

【コメント】

児童相談所の協力の下、男女別・年齢別に応じて勉強会が行われている。また、日常生活の中で注意すべき行動・態度や言葉についてプライベートゾーンの話をして子どもたちの理解を深める取り組みが行われている。

(7) 自己領域の確保

①	<p>A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とすようにしている。</p>	b	A30
	<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。	○	
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○	
	<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	○	
	<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	○	
	<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。	○	

【コメント】

日常生活用品は、各人の品目をできるだけ特定し、個人所有・私用の物品については、記名すること、各人の収納場所に保管して管理することなどを生活習慣づくりの一環として指導がなされている。傘や帽子、文房具などの紛失や置忘れ等の防止に苦慮されているが、子どもたちへの継続的な注意喚起・指導を望みたい。

②	<p>A31 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。</p>	b	A31
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録（アルバム等）が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録（アルバム等）を整理している。	○	
	<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録（アルバム等）が手渡されている。	○	

【コメント】

アルバムは子ども一人ひとりに作成され、随時閲覧できるとともに卒園時には本人に渡されている。職員とともに子どもの生い立ちを振り返る場合は、勤務年数が比較的短い職員もいるため、勤務年数の長い職員も支援しながらの対応となっている。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	<p>A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。</p>	b	A32
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもを安全を図る配慮がなされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。	○	
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○	

	○
--	---

□くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。

【コメント】

子どもの暴力・不適応行動ができるだけ生じないよう、職員研修による職員のスキルアップに努めるとともに、職員はもとより心理療法担当職員による子どもの相談・面談が随時にできることを子どもたちに周知されている。また、問題発生時には、相談室等のスペースを利用しながらタイムアウト方法などで対処され、組織的な取り組みがなされている。

②	<p>A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。</p>	a	A33
	□人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	○	
	□問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	○	
	□生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○	
	□課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○	
	□大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○	

【コメント】

職員研修等で職員の人権意識を高めるよう努め、自分の部屋以外には勝手に入室しないこと等を初めとして職員自身の行動・姿勢の注意とともに、子どもたちの意識を深める取り組みが日常的に実践されている。

③	<p>A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。</p>	b	A34
	□強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。	○	
	□引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。	○	
	□緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	○	
	□強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされている。	○	

【コメント】

子ども一人ひとりの情報を職員間で共有把握するとともに警察や関係機関への連絡・通報体制、施設内外の防犯対策などの安全措置がとられている。今後も、これらの取り組みの周知徹底と訓練の実施が望まれる。

(9) 心理的ケア

①	<p>A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。</p>	b	A35
	□心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○	
	□施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○	
	□心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○	
	□必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	○	
	□心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。	○	
	□児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○	

【コメント】

心理療法担当職員による子どもとの定期的なプレイセラピーの実施など、支援プログラムにより支援が行われている。また、必要に応じ、児童相談所や医療機関と連携し、支援が行われている。今後は、専門職によるスーパービジョンや職員研修の充実に努められるよう期待したい。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b	A36
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。		
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○	

【コメント】

小学生を対象とした学習ボランティアの活用、宿題チェック表を作成しての日々の点検、中学生については本人希望も踏まえて学習塾への通塾など、一人ひとりに応じた支援がなされている。施設面の制約から、高校生は個室の居室で学習することが可能であるが、小中学生は学習室が無いため静かな学習環境の確保が課題であると認識されている。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b	A37
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。		

【コメント】

中学生になった頃から進路についての話を一人ひとりと始めるようにしており、それぞれの目標に向かって進路設定を保護者や学校、児童相談所と話し合い、支援がなされている。高校中退等の相談についてもフリースクールや定時制への転学等の指導・支援がされている。また、高校卒業後の進学希望についても、学校等と協力し、勉学・就労と生活維持を含めた相談支援に取り組まれている。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	c	A38
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。		
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。		
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○	

【コメント】

職場実習等は、園独自で実施しているものは無く、学校でのインターンシップの機会を活用している。定時制・通信制高校等通学の子どもについては、学校とも連携し、職場開拓も行い、雇用主との情報交換等の連携協力体制の確保が図られている。また、アルバイトについては、本人の意向や学校・アルバイト先との協力体制を見極めて対応されており、今後も、これらの支援体制を保持されるとともに、子どもたちの理解を深めるための取り組みを望みたい。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b	A39
	□施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。		
	□家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○	
	□面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○	
	□外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかがわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○	
	□子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○	

【コメント】

家庭支援専門相談員を中心に職員が連携して家族や子ども、学校等と相談しながら取り組まれている。また、必要な場合は児童相談所等の関係機関を含めて支援方針を定め、関係者が連携して取り組まれている。今後も、関係機関と一体となった取り組みが行われ、家族との信頼関係構築に努められることを望みたい。

(12) 親子関係の再構築支援

①	A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b	A40
	□家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。		
	□面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○	
	□児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○	

【コメント】

親子関係の再構築に向けて、入所時から関係機関と連携しながら支援がなされている。今後も引き続き、関係機関と一体となって定期的にアセスメントを行いながら取り組まれることを望みたい。

(13) スーパービジョン体制

①	A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b	A41
	□スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。	○	
	□職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。		
	□スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。		
	□スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。	○	
	□国が定める基幹的職員を設置している。	○	

【コメント】

園長との職員面談、副園長や基幹的職員による随時のスーパーバイズが行われている。今後も、これらの取り組みを含めて組織的な取り組み体制の充実が図られることを期待したい。